黃櫨

〔佐渡志物産五〕漆　通名ウルシ

山村ニ多シ、雜太郡小倉村ノ名産ナリ、船ヲ作ルニ用テ甚佳ト云、同郡小川村ノ産ハ膚木葉ニ似テ漆工ノ好マザル所ナリ、

〔草木六部耕種法九需葉〕赭黑繭（クリカハイロノマユ）ノ野蚕ハ、上野下野越後奥州等ニ有リ、此ノ髯蠶（クムシ）ノ形狀モ毛多ク、暗青色ナルモ、淡黑色ナルモ有リ、此蟲ハ極テ漆樹葉ヲ好ムガ故ニ、會津國ニテハ此蟲夥シク滋息シテ、漆樹葉ヲ喰ヒ、一段ヤ二段ノ漆園ヲバ、一夜ノ中ニ其葉ヲ喰盡シテ、終ニ其木ヲ枯ヲ以テ、會津侯コレヲ患テ、毎年夏中ニハ度々數万ノ人夫ヲ起シテ、其野蚕ヲ退治セシム、然レドモ此ヲ殺盡スコト能ハズ、年々數多ノ漆樹ヲ枯ス、是故ニ會津ノ患トスル所ハ此野蚕ナリ、

〔倭名類聚抄十四染色具〕黃櫨　文選注云、櫨（落胡反、和名波邇之）、今之黃櫨木也、

〔箋注倭名類聚抄六染色具〕南都賦楓柙櫨櫪、李善注引郭璞上林賦注云、櫨橑櫨又上林賦華楓枰櫨、李善曰、已見南都賦、並不載此文、按漢書司馬相如傳載上林賦、顔師古注云、櫨今黃櫨木也、疑源君引之、誤以爲文選注也、按黃櫨木不詳、

〔伊呂波字類抄波殖物附殖物具〕櫨（ハニシ　ハシ）黃櫨

〔古今要覽稿草木〕はじ紅葉

はじ紅葉おほく歌によめり、文選注の櫨は、今の黃櫨木なり和名類聚抄といひ、又漆ぬるでの類なり大和本草ともみゆ、その葉漆に似て長く先尖り、霜後鮮紅に染て甚美觀なり、餘木の紅葉よりも葉の表深紅にして、裏は黃色にきは立てみゆるなり、その材を以て弓につくること、神代より所見あり、天之波士弓古事記天梔弓日本書紀とも書り、たゞし梔も櫨も皇朝のはじにはあたらずと本草綱目啓蒙いり、今世にても弓を作るに、かならず此木を以て側木とするなり、然れどもはじといはずして、はぜといへるより、別木にやとおもへる人もあり、この木はうるしの木に似て、身木も葉もうるし